

令和6年度「生活困窮者支援等のための地域づくり事業」進捗状況について

- 目標値を定めているものではないため、評価基準は所管課における自己評価となります。
【 A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分だった D 不十分だった 】

業務内容(1) 地域住民のニーズ・生活課題の把握

→具体的な活動例：地域の会議に定期的に出向き、地域の方の声に耳を傾ける。

圏域	成果	評価	評価理由
北部	空き家問題に関する地域課題を把握した。	A	充実した会議開催数があり、地域情報を十分に把握ができた。
西部	子世代に呼ばれ、高齢になり初めて市川市に居住を開始する層を把握した。	B	会議開催数に応じた地域情報の把握ができた。
東部	地域との関わり、つながりを求める学校からのニーズを把握した。	A	充実した会議開催数があり、地域情報を十分に把握ができた。
南部	活動を定着させ広げていきたい地域の個々の活動を把握した。	A	充実した会議開催数があり、地域情報を十分に把握ができた。

業務内容(2) 地域住民の活動支援・情報発信等

→具体的な活動例：地域の関係機関や団体へ出向き、地域資源の発掘を行う。

圏域	成果	評価	評価理由
北部	空き家の課題を地域で共有、勉強する機会をもった。	A	生活課題解決に役立つ情報を提供し地域で共有した。
西部	来所者対応に悩む地域ケア相談員に寄り添った研修を開催した。	A	地域課題解決に役立つ情報を提供し地域で共有した。
東部	体操の実施等、地域の要望に応じた活動を開始し定着させた。	A	地域における住民主体の活動を活性化させた。
南部	地域ケア拠点活性化に向け、地域の多世代を巻き込んだ取り組みを定着させた。	A	地区社会福祉協議会の活動を活性化させた。

業務内容(3) 行政や地域住民、NPO 等の地域づくりの担い手がつながるプラットフォームの展開

→具体的な活動例：地域ケアシステム推進連絡会の場を主体的に活用する。

圏域	成果	評価	評価理由
北部	地域ケア拠点のより良い在り方が共有され、解決に向け動き出した。	B	地域ケアシステム推進連絡会を、拠点運営を再考する良いきっかけとした。
西部	地域への移動販売の導入に向けた良いきっかけ作りがあった。	B	地域ケアシステム推進連絡会を、地域課題を再考する良いきっかけとした。
東部	地域ケアシステム推進連絡会にてお互いさま事業の新たな実施方法を検討した。	B	地域の担い手の新たな関係性を構築した。
南部	共生センターでの多機関、多世代による協働の定着に取り組んだ。	A	地域ケアシステム推進連絡会以外のプラットフォームを実用的に展開させた。

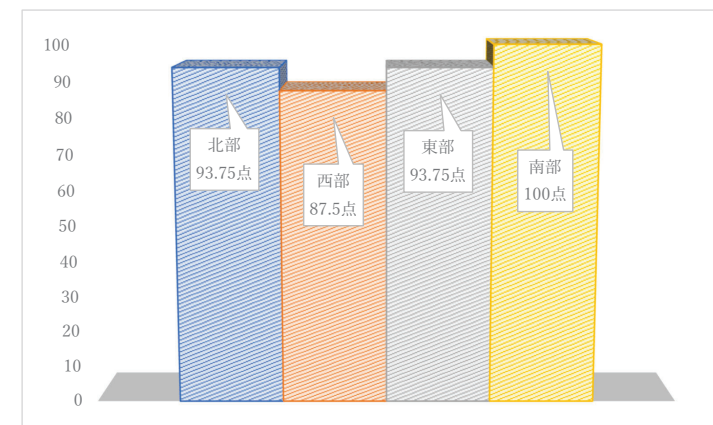
業務内容(4) コミュニティソーシャルワーカーの業務

(①地域住民への個別支援等、②地域づくりに向けた支援)

→具体的な活動例：地域の居場所づくりに向けた支援。個別ケースへの寄り添った支援。

圏域	成果	評価	評価理由
北部	支援者がありながら関わりが中途半端である個別ケースに対し主体的に寄り添った対応を継続している。	A	個別ケースへの対応が丁寧に行われた。
西部	問題の重なり合う外国籍世帯ケースに寄り添った対応を継続している。	A	個別ケースへの対応が丁寧に行われた。
東部	こども食堂を定着させたほか、複雑な問題を抱える個別ケースに寄り添った対応を継続している。	A	居場所を定着させ、個別ケースへの対応が丁寧に行われた。
南部	数多くの個別ケースに寄り添うほか、垣根を超えた居場所づくりを行い、定着させている。	A	地域福祉、地域づくりを推進する専門職として活躍した。

業務全体の達成度



※A 評価を 100 点満点とし、以下、B 評価 75 点、
C 評価 50 点、D 評価 25 点として配点。
合計して 4（事業数）で割り戻した圏域別点数と
全体の平均点。

93.75 点